

令和7年度 英語科 授業改善推進プラン

大田区立大森第一中学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・生徒の実態を考慮し、ペアワークなどを用いて、対話を通して学習が深まるような工夫をした。また、デジタル教科書を活用し、視覚的に生徒の理解を深められるよう努めた。
- ・知識を定着させるために、授業の始めに、前時の振り返りの時間を設け、基礎の内容を確実に定着させるよう指導した。

(2) 課題

- ・基本文など基本的な文法内容を、応用問題や論述問題で表現する力が身につけていない。また、問題を読み取る力が十分に身につけていないため、ケアレスミスが多い。
- ・家庭学習の習慣を確立させるため、「定期的な課題を課す」、「家庭での学習ルールを決める」など、家庭学習を促す工夫が必要である。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和7年度結果	令和6年度結果	令和5年度結果
第1学年	教科正答率では目標値を下回った。領域別正答率では特に「聞くこと」における正答率が目標値を大きく下回った。		
第2学年	基礎の校内正答率は目標値を下回った。領域別では「聞くこと」が目標値をやや下回ったが、おおむね正答できている。	基礎では目標値をやや下回った。活用や一部のリスニング問題、「英作文」では目標値を大きく下回った。(第1学年時)	
第3学年	選択の解答形式については、正答率が高いが、目標値に届いていない。また、「書くこと」に課題がある。	基礎、活用ともに目標値を下回っている。領域では「聞くこと」が得意である。(第2学年時)	基礎・応用、領域別正答率はどの項目も目標値を超えている。日常会話の聞き取りが目標値を下回っている。(第1学年時)

(2) 分析 (観点別)

① 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
「聞き取り」の問題に関しては基本的な問題でも目標値に達しない部分が見受けられる。	英文の完成や英作文において、英語の基礎基本の知識を習得して活用することが出来ていない。	データなし

② 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
基本的な文法を用いて、文を書くことに課題がある。	基本的な文法を用いて、質問をすることに課題がある。英作文では無回答が多かった。	データなし

③ 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
疑問文の語順が定着していないため、簡単な質問をすることや文法の並び替えに課題がある。	相手に伝わるように理由をたずねる、自分の考えを具体的に書くことに課題がある。	データなし

3 授業改善のポイント (観点別)

(1) 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
帯活動を工夫し、英語を聞いたり話したりする場面を増やすことで、簡単な語彙の定着を図る。	家庭学習を工夫し、書いて学習ができるように工夫をする。また、授業の中でも確認し、指導をしていく。	家庭学習に自主的に取り組むことが難しい生徒が多いため、学習のルールを定め、学習環境を整えていく。

(2) 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
家庭学習の時間を工夫し、生徒が反復練習する回数を増やすことで、基礎的な学習内容の定着を図る。	授業の中で、ライティングの時間を工夫し、簡単な英文を書く力が身につくよう丁寧に指導をしていく。	家庭学習に自主的に取り組むことが難しい生徒が多いため、学習のルールを定め、学習環境を整えていく。

(3) 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
帯活動では前回の単元の復習を必ず行うことで、学習内容の定着を図る。また、家庭学習の時間を工夫することで基礎的な学習内容の定着を図る。	帯活動で聞いたり話したりした内容を、自分の文で書きまとめる活動を通し、簡単な文を書くことができるよう指導していく。	家庭学習に自主的に取り組むことが難しい生徒が多いため、学習のルールを定め、学習環境を整えていく。